

東京熊工会

会長 松本 秋敏 様

拝啓

薄暑のみぎり、東京熊工会の皆様におかれましてはますます御清栄のこととお慶び申し上げます。また、貴会におかれましても御隆昌のこととお慶び申し上げます。

先日開催されました東京熊工会では、大変お世話になりました。熊工会の総会ならびに懇親会に出席させていただき、貴会の皆様と親睦を深めることができ、大変有意義な時間とさせていただきます。いただきました。

さて、四月に発生しました熊本地震は、創立以来一一八年の歴史を誇る本校にとっては、空前の自然災害であり、生徒・保護者・教職員にとっても物的面・心的面ともにこれまでに経験のない甚大な被害を被った震災でした。

また、地震発生直後には、私ども教職員は、生徒の安否確認、学校の施設・設備の点検・片づけ・復旧等に加え、地域の方々のための避難所としての運営・対応等の多くの業務に奔走する日々が続きました。

しかし、そのような中、本校に避難された近隣の多くの方々からは、「常々から何かあれば熊工へと思っていた」「熊工が一番安心」と、本校を強く頼りにされている心中を聞かせていた

いただきました。重ねて、「熊工は安心できる学校」「熊工の生徒はしっかりしている」等、本校に対する感謝の思い等を熱く語られていられる顔を拝見していると、魂の震えを覚え、胸が熱くなる思いとなり、生徒・職員一同、業務遂行に一層の励みとなりました。

これも一重に、これまで諸先輩方が築いてこられた実績と本校の歴史と伝統に裏付けされた熊工ブランドのお蔭であると感謝するものでもありました。

地震発生後約三週間の時が過ぎた五月八日（日）には、避難されていた地域の皆様は熊本市が用意した拠点避難所、近くの小学校や自宅等へ移られ、本校の避難所としての重責を無事終了させることができました。

お見送りする際には、本校の生徒並びに職員は避難者の方々から感謝の言葉を沢山頂き、地域から信頼される学校づくりの一翼となったと、一同、充実感すると共に、目頭が熱くなる思いが込み上げてきました。

地震発生から約二ヶ月の時が過ぎようとする今日、まだまだ余震も続いており、自宅に被害を受け避難先から登校する生徒もいますが、全国の皆様から励ましと支援を頂戴しながら、お蔭をもちまして五月十日（火）に授業を再開し、生徒の若さと元気が源となり、以前のように学校には活気が戻ってきました。

この度、貴会より頂戴いたしました過分なる義援金は、被災生徒や学校の復旧等に有意義に活用させていただきます。そして、義援金を基に、これまでに以上に元氣ある熊本工業高校づくりに尽力していきたいと思っております。

今後末永く本校を見守っていただき、倍旧の御指導・御支援を賜りますことをお願いし、意を尽くすことはできませんが、書面にてお礼の御挨拶とさせていただきます。

貴会並びに皆様の今後ますますの御健勝とさらなる御発展・御活躍を祈念いたしております。

お手数をおかけしますが、皆様にもよろしくお伝えください。なお、この度お世話になりました皆様には別途お礼を申し伝えます。また、領収書を同封いたしましたので、ご査収願います。

ありがとうございました。

敬具

平成二十八年六月七日

熊本県立熊本工業高等学校長 松下幸美

職員一同

生徒一同